

報告日 令和7年9月4日
報告回次 2回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会			代表者名	片桐 計幸
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務課総務係	連絡先電話番号	0287-37-5122
担当者役職	主任	担当者氏名	郡司 哲弥	連絡先E-mail	
住所	329-2705 栃木県那須塩原市南郷屋5丁目163番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	那須塩原市役所	連絡先部署	企画部デジタル推進課
担当者氏名	課長 鈴木 正宏	連絡先電話番号	0287-48-7851

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	DXの活用による地域福祉推進事業
概要	栃木県社会福祉協議会、近隣の市町行政職員・社会福祉協議会職員（那須塩原市、大田原市、那須町の3市町を想定）を対象に、DX推進における認識や必要性の共有化、社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会（以下、本会という。）と行政とのパートナーシップの推進を図ることを目的に研修（ワークショップ）を実施したい。また、昨年度の支援を踏まえ、今後のDX推進における取り組みに向けたまとめとして、ムーンショット（ありたい姿・状態）からの具体的な取り組み（手段）を描くまでの過程をとおしながらDXの推進に向けた助言をいただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 人材（外部人材活用） 医療・介護・健康 ICT活用広報		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年8月29日	講演&フォローアップ(実地)	8時30分	17時00分	60
				活動時間（分）	450
2-2.	会場名	社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会本所（健康長寿センター内）	最寄駅	西那須野駅	
派遣場所	所在地	栃木県那須塩原市南郷屋5-163	最寄駅からの交通手段	タクシー	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	宮崎 昌美
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったです等詳細に）	今回は近隣の社協職員や自治体職員等を対象に、講義やワークをとおし、DXの共通認識・共通言語化の機会として、各組織内の機運の醸成を図ることのできる内容で研修をしていただいた。また、自治体に対し社協におけるDXの必要性を訴えかけていただいた。
アドバイザーへの要望事項	引き続きアドバイスをいただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	25人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	7		18	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	・財源面や人員の確保等において厳しい現状にあり、業務上において、効率化が図れていない業務が山積しているため、DXの活用をとおし業務の見直しをすること。 ・DXを推進していく上で、職員一人ひとりの意識の共有化を図る必要がありますが、具体的な取り組みを描いていく必要があります。 ・本会が置かれている現状等を行政（市）に伝え、地域福祉の推進に向けてともに取り組んでいく必要があります。
---------------------------	--

支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	・令和8年度末までにDXを推進することにより、福祉の総合相談窓口の機能を十分に発揮し、地域住民に対し、地域づくりや相談支援、社会参加の充実を今以上に図っていくことを目標としている。目標が達成されることにより、地域住民のやりたいという思いに寄り添い、その思いが実現できるようになることを目指す。 ・DXの成果として、毎日が「楽に」、「楽しく」なったと職員が実感できるようになる。
----------------------------	---

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の社協職員や自治体職員等を対象に、講義やワークをとおし、DXの共通認識・共通言語化の機会として、各組織内の機運の醸成を図ることのできる内容で研修をしていただいた。また、自治体に対し社協におけるDXの必要性を訴えかけていただいた。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> DXにおける認識の共有、機運の醸成を近隣社協職員にも図ることができた。 社協におけるDXがなぜ必要なか自治体に向けて訴えることができた。
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> DXが必要となる理由を本会職員のみならず近隣社協職員も考える機会となった。 DXを進めていく上で、自治体と協働することが必要であると再認識できた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> DXの推進に向けた具体的な取組や方策 ムーンショット（理想の姿）における目的と手段
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 3回シリーズでの支援のため、アンケートを行わなかった。</p>
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるもののリストより選択下さい ②次年度に予算化を図り推進する 本会におけるムーンショットを描き、DXの手段を明確にする。また、具体的な計画や予算確保等を進めていく。</p>
4-4. 事業の最終的な目指す姿	DXを推進していくながら業務の効率化を図り、地域共生社会の実現を目指すこと。

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 ○掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

